

共生のまち大津・演劇プロジェクト 第4回公演
(2020.11.14～11.15:スカイプラザ浜大津)

共生のまち大津・演劇プロジェクト実行委員会では障害者が自ら舞台に立ち、表現する「劇団 まちプロ座」と市民劇団「グループ橋」が対等の立場で協力し、演劇公演を行うことで、障害のあるなしを問わず、表現する行為に違いはないことを示し、異文化や多文化、共生と平和を楽しみながら理解していく取り組みを2017年度から、行っています。

毎年11月のスカイプラザ浜大津公演、学校、地域福祉関係団体における出張公演も展開しています。

「劇団 まちプロ座」、「グループ橋」ともに今年度は新作を準備しました。

「劇団まちプロ座」は脳梗塞により、障害者になった男性の絶望と再生の物語『秋の風は二度吹く』を「グループ橋」は診療所を舞台にコロナの時代における人間模様『診療日誌 I.ご署名 II.コロナの時代』を上演しました。

基本的には事前予約制をもとにしたチケット購入という形態で劇場にて、公演を行い、感染対策上、劇場定員を半数（定員122→61）にし、2日間にわたり、122人を動員しました。

感染対策で徹底したことですが、まずは客席数を定員の半分としました。（会場：スカイプラザ浜大津スタジオ1・定員122→61）そして、受付において、検温を実施し、アクリル板も設置しました。2つの劇団が同じ舞台を使用するため、演目が変わる、舞台転換時において客席等を消毒し、舞台転換中は一つのスペースで密にならないように観客の誘導も行いました。



① 検温



② 消毒



③ 受付におけるアクリル板の設置



④ 感染対策における客席数の制限



⑤ 舞台転換時における客席等の消毒



⑥ 劇団まちプロ座『秋の風は二度吹く』劇風景



⑦ 劇団まちプロ座『秋の風は二度吹く』劇風景



⑧ グループ橋『診療日誌 I.ご署名』



⑨ グループ橋『診療日誌Ⅱ,コロナの時代』